支那繪畫史座談會記事

——十二月二日午後六時半より樂友會館一號室において——

内藤乾吉、伊勢專一郎、奥村伊九良、小川茂樹、長廣敏雄、三國谷宏
藤枝晃、水野清一等十八人

水野　支那の繪畫は支那の歴史を研究する上からいふとひとつの大きな分野だと思ひます。それに東洋史を研究するものがいままであまりに無關心でゐたのは結局非常にむつかしいからでせうか。さひはひ内藤先生の『支那繪畫史』がこんど本になりましたから、これを機會に大いに勉强したいと、よりより相談いたしまして、今夜お集りを願つたわけです。長廣君に讀後の感想を少ししやべつてもらひ、それをきつかけにして話をすゝめてもらひたいと思ひます。

長廣　『支那繪畫史』はどこから讀んでもよいが、「南畫小論」がその序論であり結論みたやうなものであつて、これからはじめてそのほかのものに及ぶと先生の眞意がよくわかるやうに思はれる。それは支那の繪畫史が結局南畫即ち主觀的繪畫の成立史だといふことであり、またその南畫は世界の藝術上獨特の地位をしめるもので、支那畫の理解がすゝめばすゝむほど世界中の藝術はこのために大きな影響をうけるといふのです。とにかく從來世に出た繪畫史とくらべて見れば先生の獨創的なところはよくわかると思ふ。この挿圖だけでわかりにくいと思ひまして、古いところから北宋までくらゐの細部燒付をまわしますから見てください。

伊勢　たしかにさうです。先生は全然なにもないところからこれだけのものをつくられた。そして當分は誰もこの範圍を出られないだらうし、また出る必要もあるまい。

奥村　いや、出たらいゝ、出なければいかんと思ふ。

伊勢　この中にはおさめられてゐないが、博文館の美術寫眞畫報の支那畫特輯號に先生の「清朝季世の代表畫家」といふのがでてゐる。これには長尾雨山さんの論文もあり、めづらしいのは桑名鐵城氏の畫論も出てゐる。

内藤　いや、さういふものゝあるのは知らなかつた。

伊勢　お宅にもあると思ひます。

内藤　實はこの編纂も伊勢さんにお願ひしたかつたのですが、お願ひすれば伊勢さんの岩倉まで何遍ゆかねばならぬかわからぬので、無性なわたくしはそれをおそれて、自分でやりました。繪畫史はまつたく門外漢で、時々名畫が來たときにわからぬながらに父から見せられた位の知識しかなく、まことに大膽なわけであるが、やつて見て勉强になりました。それで、挿繪などこれでよいのかどうか

まだわからぬところがある。第三十九圖董源の寒林重汀圖など名畫ださうだが本文とはびつたりしないやうだし、崔白も雪雁圖(第四十六圖)を入れたが、それでよいかどうか、沈石田、董其昌などもこれ(第九〇、九二圖)で代表できるかどうか、なるべくその人らしい繪を入れたいし、またよい繪を入れたいといふこともあつてなかなかむつかしい。再版でもすることがあればなほします。

奥村 再版のときにはかなをつけてください。

伊勢 固有名詞にはどうしても必要です。

藤枝 索引もつけてほしい。

内藤 索引をつけたい、人名索引だけでも、號や異名などとあはせてつけたいと思つたのですが、なかなかてまがかゝる。

奥村 動詞にもかなをつけんとわからんところがある。皆さんでもわからんと思ふ。

内藤 動詞にか?

三國谷 もつとつけてほしいね。

伊勢 むつかしい形容詞にはつけてほしい、注もほしい。

内藤 もつともですが、繪畫史をこの本だけですまされてはこまる。これからすゝんでもつとやつてほしいと思ふ。

奥村 とにかくかなをつけたらよろしい。

伊勢 趙令穰の春江烟雨圖卷(第四五圖)はいま守屋(孝藏)さんとこにあります。

内藤 さういふことがまだまだあると思ひます。趙孟頫の羊圖(第六四圖)もアメリカのフリア・ギヤレリーにいつてゐます、郭熙の溪山秋霽圖卷(第四三圖)もさうです。そのついでにすこし間違つたところをいひますと、五五頁末の荊浩の繪は「式古堂書畫彙考著錄の一あるに過ぎない」(第二九圖)といつたのは「式古堂書畫彙考著錄以外の一あるに過ぎない」としてください。一四三頁三行の蒙仙は蒙泉、二二二頁四行の數十年は數千年間、二四一頁七行の畫は書、……

伊勢 しかし、後漢の蔡邕は三美を稱せられたのですから書だけにすれば二美になります。

内藤 二六九頁一四行の二十五六歳までは二十五六歳から三十二三歳までとする、さうしないと天才でもあんまり早すぎる。

伊勢 それよりすこし混亂してゐないかと思はれるのは宋と宗とです。

内藤 いや、さういふところがあります、一一一頁の夏珪は北宋の畫院風ではあるがといふところはどうですか。

伊勢 先生は宋はソウ、宗はジュウと發音された、それを知つてさへゐれば聞いてまちがふことはないと思ふが、……

内藤 まだ第一七四、一七五圖の蕪村の繪もこれであたつてゐるか……

伊勢 先生の繪畫史は無から有を生じたやうなもので、全くどこにも種本のやうなものがない、古いものはとにかくだが、清朝のものになると畫人傳もなく、何もない、先生のえらさがよくわかると思ふ。畫論をぬきがきにした繪畫史や、仕こみの題跋などがよくあつて、はこがきなど見ても何のたしにもならぬものばかり、それを思ふと早く先生の序跋を集めて世に出したいものである。董其昌のかいたものなどから入り、繪そのものから入る人がない。沈石田の印はあるが、

夏珪らしい繪で作者がわからないといふ繪、これに先生は跋をかゝれたが、沈石田は北宗で、夏珪などを習つたらうからと、この繪を沈石田にしてしまはれた。こんなところは董其昌以上で、實に眼光畫背に徹する人だ。序跋の集をつくつても日本で流布するより、支那に流布させたいやうに思ふ。

内藤 序跋集もなかなかやつかいや。

奥村 董其昌も無から有を出した人や

伊勢 さうです。南畫と北畫の別、また文人畫のことも董其昌もいつたがこれまでにない。繪のわかる人でないとできない藝當だ。繪畫史は新しいから繪がわからぬでもやれる哲學史など古いから哲學がわからなければ全くやれない、誰もあいてにしてくれない。この本は別に新しいことばを使つてゐないが、繪畫の本質をついてゐる。當分この中で躍つてをればよいだらう。

奥村 こんなことではどんならん。やつぱり先生より出ようと思ふ。

伊勢 文人畫などといつてもちつともわかつてゐない。爽籟館の惡口などいふ人もあるさうだが……

水野 先生の編纂に關係された本をすこしまわします……『南畫淵源』……『北畫薪傳』……『有竹齋藏清六大家畫譜』……『董盦藏書畫譜』……『爽籟館欣賞』……

長廣 もう一度燒付をまわします、李成王曉の讀碑圖(第三一圖)です。

伊勢 王曉には鷹の繪があります。

内藤 蔡京讃の徽宗の鷹といふものは何處にありますか……

伊勢 小川(陸之助)さんとこにある。近頃の舶載です。

長廣 范寬の秋山蕭寺圖卷(第三二圖)をまわします。

伊勢 この繪は大村(西崖)さんが何とかいはれたといふので安部さんは買はれず、齋藤さんが買はれたが、そのあとでひじやうにほしがられたさうです。また管道昇の繪もそれと同じやうなことがある、齋藤さんは内藤先生のいふまゝに買はれたのです。

長廣 こゝに董源寒林重汀圖(第三九圖)の細部があります。

奥村 はあ、こんなところがありますか。かうするとすつかりちがひますな、いゝなあ。

小川 實物はもつと黑くて、さう面白いと思はなんだ。これは實大寫眞の方がよほどよくわかる。

伊勢 しかし、やつぱり實物でないとほんたうのことはわからない。實物の展覽會を開くといゝですがね。さうたくさんいりませんよ、三十幅くらゐでよろしい。

長廣 いゝですね、ぜひやつてほしいですね。

水野 伊勢さん、この荊浩(第二九圖)の岩とか木とか歷史的に說明してもらへないものですかね。

内藤 それは君、伊勢さんの『支那山水畫史』を讀んだらわかるよ。

水野 讀む前に何か一言聞きたいなあ。

(このあたりになると煙が部屋にたちこめて、だいぶミスチカルになつてくる)

内藤 この中に出てゐる毛益の犬(第五十四圖)と狩野探幽の模本とを親父に見せられて、どつちがよいかきかれたことがある。自分は探幽の方がいゝやうに思はれた。所がこつちの方がよい、ちよつといはれて見るとこつちがよくなつた。

奥村　いや、內藤先生はそのちよつといはれることがなかなかうまかづた。人を見て法をといた。

水野　そんならこゝに馬遠が四枚ある、どれがよいか、めいめいにきめようか。

小川　寫眞ではよくわからん。

奥村　いや、面白いからやつて見よう。

（このあたりになると、ますます佳境に入つて來る、到底筆舌のよくうつせるところでない。よつて記者は斷念したが、大體の雰圍氣から、これからさきのありさまもだいたい御想像ありたい。そして最後は……）

奥村　やつぱり實物が早う見たいもんや。

內藤　まあそれまでの準備に寫眞でもかまはんから、今夜のやうな會をまたやつて見よう。

皆　よからう、よからう。

（みづの・せいいち）

◇　◇　◇

北京だより——一日、今西君とふたりで西城の護國寺を見に行きました。護國寺については既に營造學社彙刊に報告がありますが、ていねいにしらべると仲々興味を覺えます金堂にも當るべきかの千佛殿の裏にある護法殿で、喇嘛式の壽壁を見てゐると今西君をすてきによろこばせた繪が見つかりました。壽壁は東西兩側にあるもので營造學社の報告に見えるものですが、運筆彩色ともによく、はじめは元のものかと思はれるほどでしたがよく見ると少し降り明頃のものゝやうです。

こゝには三尊佛を初め例の姚廣孝の木像などが數體あり、なほ殆んど腐朽した佛像も多數積みかさねてありました。これらも又明代のものと思ひますが、姚氏の像は勿論阿難迦葉像などでも、仲々寫實的に優れて居ります。

なほ護法殿の礎石は二種あり、一種は清朝頃盛に使用されて居る形ですが、他は元の遺構を傳へて居るのではないかと考へられます。此殿は最早すつかり荒れ、屋根なども大穴があいて居る有樣なので、あのまゝでは遠からず千佛殿の轍をふむものと思ひ保護の必要を叫けばざるを得ませんでした。

殿前に唐獅子二個あり、村田博士は北京第一と折紙をつけて居られますが、成程立派で創立當初のものでせう。なほ例の金銅半伽菩薩像は後部藏經閣（後樓）內に健在です。小野生